

NEWS

The Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館ニュース

No.

45

March, 2026

活発化するフジイギャラリー

九州大学フジイギャラリーは、ただ「展示をする」だけの場所ではなく、触発と自由な発想を促し新たな交流や異分野越境を生み出す場として、総合研究博物館が管理、企画、運営を担っています。今号でも活発かつ多彩な活動を報告することができました。伊都キャンパスにお越しの際は是非ともお立ち寄りください。

総合研究博物館第10代館長 堀 賀貴





お知らせ

常設展示室をリニューアルします

丸山 宗利 分析研究部門・准教授 / 米元 史織 開示研究部門・准教授

九州大学総合研究博物館は、箱崎サテライトでのリニューアルを目指し、昨年より一時的に休館しております。当初は、旧工学部本館3階のフロア全体を改装し、新たな展示空間とするという構想を描いておりました。しかしながら、予算面の課題に加え、旧工学部本館の将来的な活用方針が未確定であることから、現時点での実現は難しい状況にあります。

そこで今回、これまで15年以上にわたり小規模な入れ替えを重ねてきた現・常設展示室(従来と同じ場所)を大規模に刷新し、今年5月に予定しているミュージアムウィークでの公開に向けて整備を進めることといたしました。本展示は、将来的な展示室拡張への布石として、その構想を凝縮した“ダイジェスト版”ともいえる内容を目指しております。

展示にあたっては、教員と技術補佐員の総力を結集し、九州大学に残る歴史的な木製什器を活用しながら、照明やキャプションに至る細部まで丁寧に設計・設営し

ます。昆虫、鉱物、魚類、哺乳類、考古、人類資料など、多岐にわたる分野の展示物を全面的に入れ替え、これまで足を運んでくださった皆様にも新たな発見と驚きを感じていただける空間へと生まれ変わらせます。

本事業には、皆様からお寄せいただいたご寄付の一部を大切に活用させていただきます。今後も多様な方法で資金を募りながら、福岡市を代表する自然系博物館として、研究・教育・社会連携の拠点となる展示教育施設の充実を図ってまいります。



① 修繕のための木製什器の搬出 / ② アクリル設置の材料に用いる棚板

フジギャラリー展示開催報告

フジギャラリーG1展示について

福永 将大 開示研究部門・助教

フジギャラリーには、「G1:ギャラリー1」と「G2:ギャラリー2」の二つの空間があります。このうち、G1はちょっとした休憩スペースとしてもご利用いただくことができるため、G2で企画展示などが開催されていない時期でも、多くの方にフジギャラリーをご利用いただいております。

せっかくお越しいただいた方に、より楽しんでいただけるよう、このたびG1を利用した新たな企画展示をはじめました。一つは「九大 EXPO」です。九州大学には現在約2,000人の研究者が在籍しており、人文社会科学系、自然科学系、デザイン系の幅広い分野の研究者たちが、



日々卓越した基礎研究および応用研究を行っています。そうした研究成果を広く知っていただけるよう、近年公表された研究成果の中から、特に注目される成果について

紹介するパネル展示を開催しています。

もう一つは「出張! 九大総合研究博物館 in フジギャラリー」です。九州大学総合研究博物館には、九大百年の歴史のなかで収集されてきた様々な分野の学術標本資料が数多く収集されています。これら貴重な学術標本資料を、是非とも多くの方に見ていただきたいということで、当館の収蔵品の一部をG1で展示することにしました。

いずれも定期的に展示内容を替えていきます。展示替えのタイミングはあえて秘密にしますので、是非ともフジギャラリーにお越しいただき、チェックしてみてください!



① 九大EXPO展示風景 / ② G1展示風景

開催報告

「化石の日」記念 プチ展示 in 九州大学

桃崎 瑛弘 大学院理学府 地球惑星科学専攻 博士課程1年



2025年10月14日～15日に、伊都キャンパス内の伊都標本資料研究・教育ランチ(伊都ランチ)の一角をお借りし、『「化石の日」記念プチ展示 in 九州大学』を開

催しました。「化石の日」は、日本の国名を冠するアンモノイドであるニッポニテス・ミラビリス(*Nipponites mirabilis*)の新種記載論文の発刊日に基づき、日本古生物学会によって定められた記念日です。本展示会は今回で第4回目となり、地球惑星生物学研究室に所属する学生が主体となって、企画立案から当日の運営までを行いました。

当日は7名の学生が参加し、各人が現在取り組んでいる研究内容を紹介する展示を作成しました。展示には実物標本に加え、化石の内部構造を示すために3D

プリンターで作成した模型や、肉眼観察が困難な微化石を顕微鏡下で観察できる展示が準備され、研究を分かりやすく、かつ臨場感をもって伝える工夫が随所に見られました。

当日は50人以上に足をお運びいただき、理学部以外の学生や学外の方が多く来場された点が印象的でした。来場者からは、「研究の話を直接聞ける貴重な機会だった」

「古生物学の世界に触れ、多くの新しい知見を得られた」といった感想が寄せられました。また、「伊都ランチを展示や企画により積極的に活用してほしい」という



意見も多く寄せられました。今後は古生物分野に限らず、様々な分野が関わり合いながら、伊都ランチが「教育」の場としても一層活用されていくことを期待しています。

活動報告

九大博バーチャル化プロジェクト

堀 賀貴 総合研究博物館第10代館長



九州大学のメインキャンパスとして約1世紀にわたり中心的役割を担った箱崎キャンパスに所在した旧工学部本館は、現在九州大学総合研究博物館として生まれ変わり、学術的に貴重な資料や魅力ある展示品を数多く収蔵しています。また、箱崎地区の再開発事業にともなって、周辺的环境も大きく変わることが予想されます。そこで、博物館の今の様子を記録するとともに、この特別な空間の魅力をより多くの人に届けるため、九州大学人間環境学府堀研究室は2025年7月より博物館のバーチャル化プロジェクトを開始しました。

本プロジェクトでは最新機材による三次元計測を行

い、まずは建物外観と館内空間を忠実に再現した3次元データを作成してウェブ上で公開しています。さらに展示品自体もデジタル化を開始し、現時点で一部(骨格)ですが、閲覧も可能にしました。寸法の計測や断面の生成も可能として、細部まで観察できる環境を整えました。また、訪問者は時間や場所に縛られず館内を自由に巡り、解説を読みながら展示を体験できるように工夫しています。普段は非公開の四階の会議室にも入れます。青山熊治作の高解像の壁画もご覧ください。以下のURLです。

<https://history.arch.kyushu-u.ac.jp/VirtualMuseumSample/>

なお、ブラウザはChrome, Firefoxを推奨します。Safariではうまく表示されない可能性がありますのでご留意ください(スマホでも閲覧できます)。

まだ、サンプルとして限定的な公開ですが、今後とも、様々な機能の拡充を視野に誰もが気軽にアクセスできる開かれた大学博物館を目指していく予定です。



フジイギャラリー展示開催報告

みんなの医学： 芸術・科学・ケアのビジョン

ローレンス ヨハン 基幹教育院・教授

期間●2025年9月8日～9月26日／会場●フジイギャラリー G2



①

「みんなの医学」をテーマに、ベルギーのルーヴェン大学で開始したプロジェクトの継続として、2025年9月にフジイギャラリーでインタラクティブな展覧会を開催しました。

様々な作品を通して、健康と幸福を促進するために多様性の重要性について考察しました。長きにわたり、医療は白人男性の基準に焦点を当ててきました。しかし、現実には、人間の生物学的特徴・文化には計り知れない多様性が存在します。そこで、展覧会のキーコンセプトとして、生命の多様性を称えること、配慮をもって適応的に反応する能力、そして協働による創造性を掲げました。

展覧会は、九州大学の9人の学生チームと共同で設計・制作しました。目標は、可能な限り自立した制作を行い、最小限のコストで自らの資材を使用することでした。展覧会では、来場者に「持ち運び可能な展示」として手作りのガイドブックを配布し、実験コーナーで

絵を描いたり、ラットの脳切片から海藻のサンプルまで、様々な資料を並べたりと、創造的に活動する機会を設けました。

アーティストのクララ・スピリアートは、ルーヴェン旧市街に制作したパブリックアートの抽象版を再現しました。それは、井戸を覆う4つの蓋を女性の視点から具現化した心臓血管系へと昇華させたものでした。



②

詩人のヤン・ローレンスは、中世フランドルの神秘家ハデヴィヒへのオマージュとして詩を書き、愛の経験に統合される喜びと苦しみの源泉として、個々人の無限の違いを称えました。

フジイギャラリーでは、これらの作品がさらに拡張され、花田智浩による新作写真作品と共に展示されました。台北の人々の創造性、そしてありふれた物を創造的な方法で用いる様子が表現されています。

若手ビデオグラファーの工藤聡真は、9人の人々が様々な手作業を行う様子に焦点を当てた一連のビデオ作品を制作し、「時間の生物多様性」と名付けました。

様々なアーティストによるこれらの作品を通して、多様性への反応が芸術とケアの両方にどのようなインスピレーションを与えているかを感じることができました。

① 展示風景 1 / ② 展示風景 2

COLUMN ①



2026年3月16日～4月24日にフジイギャラリーにて、卒業設計展「Finished / Unfinished～卒業設計と完成までのプロセス展～」を開催いたします。

九州大学工学部建築学科4年

生は、大学生活4年間の集大成となる卒業設計に1年間かけて取り組みます。

今回の展示では、プレゼンボードや模型などの完成作品はもちろん、さらにその制作過程

フジイギャラリー展示開催予告

工学部建築学科 2025年度卒業設計展

工学部建築学科4年 一同

も含めて展示します。1年間で設計案がどう変化していったか、どのような思考がデザインやアイデアを変えたのか、卒業設計で何を伝えたかったのか。その背景や過程も含めて見てい

ただければ、私たちが表現したかったことがより伝わるのではないかと思います。ぜひ足を運んでいただき、私たちの大学生活の集大成を感じ取っていただければ幸いです。

フジィギャラリー展示開催報告

九州大学 100年の中国学研究

The 100 Years of Sinological Studies at Kyushu University

静永 健 人文科学研究院・教授

期間●2025年10月6日～11月28日／会場●フジィギャラリー G2



この展示は現在の人文科学研究院、比較社会文化研究院そして言語文化研究院に所属する中国伝統思想、文学、そして中国語学の教員および研究室が、本学に設置されて間もなく100年になるのを記念し、その研究資料や過去の著名な名誉教授たち(legend-6)の業績などを紹介する。期間中は全国規模の日本中国学会第77回大会や九大祭とも重なり、学外かつ全国から多くの方々に観覧していただきました。来場された皆様方に厚く御礼申し上げます。

展示品は全部で38点、また19枚のパネルを掲示、一般来場者にもわかりやすく陳列した。展示室は3部構成。まず第1部は「九州の地から」と題し、江戸時代の儒者亀井南冥による金印(漢委奴国王印)の考証や、長崎出島で書かれた医術書(人物絵に西洋人のほか弁髪姿の清朝人も見える／本学医学図書館所蔵)、また大航海時代末期にヨーロッパで作られた世界地図(日本や中国近辺の表記に当時の日本語や中国語が反映)などを展示した。

第2部は「道を学びて」、第3部は「人を愛す」と題したが、

この四文字(学道愛人)は現在も中央図書館閲覧室に掲げる革命家孫文の揮毫による。『論語』の名言で、中国学のめざすものが、単に事象の究明のみにとどまらず、それに従事する者の人間性の陶冶にあることを示している。九大中国学のlegend-6とは、哲学の楠本正継、荒木見悟、岡田武彦、文学の日加田誠、岡村繁、そして京劇など中国伝統演劇の研究とコレクションで有名な濱一衛であるが、数々の展示品の中で、来場者アンケートの反響が最も高かったのが、楠本の「原稿用紙にすべて手書き」された研究報告書と岡村の「リング箱いっぱい詰められた」正史三国志語彙カードであった。「昭和の研究者の学問への情熱に圧倒された」という感想も見られた。このほか展示品には所謂「九州大学本」として学界でも知られる朝鮮古写本『朱子語類』140巻

や、古典小説の珍本『三国志伝』20巻、また本年重要文化財に指定された『金光明最勝王経』(国語学の春日政治・和男父子の旧蔵)なども陳列された。今回の企画に際して、本学の総合研究博物館、大学文書館、また附属図書館など各方面の方々に多大なご協力をいただきましたこと、末筆ながら御礼申し上げます。



① イベント風景／② 展示風景

COLUMN②



フジィギャラリー展示開催予告 対馬暖流沿岸の海と人!

清野 聡子 工学研究院環境社会部門生態工学研究室・准教授／瓜生 泰子 同テクニカルスタッフ

「対馬暖流沿岸の海と人!」と題し、国境の島の対馬を中心に、対馬暖流と季節風が織りなすダイナミックな自然と共生してきた暮らしの変遷を、仁位孝雄写真展「ふるさと対馬を撮る!」と研究発表「対馬今昔—暖流と季節風との暮らし」

の二本立てで迎えます(5/12～7/10)。漁業を中心とした生活文化に注視し、自然共生社会の在り方を考え、対馬海峡の歴史、隣国との国際性も紹介します。

写真家・仁位孝雄氏の写真には、まさに対馬島と対馬海峡という、海洋

学的、地理学的、文化的に稀有な地と海の全てが込められています。特に、漁業資源が豊富であった時代の漁村や人々の暮らしは、伝説的でありながら文書にもほとんど残されていない状況でした。この作品群は美術として、そして研究資料としても重要です。



フジギャラリー展示開催報告

交差する海、響きあう文化： 東アジア地中海の芸術的対話

Gloria Yu Yang 人文科学研究院・講師 / Anton Schweizer 人文科学研究院・教授

期間 ● 2025年12月9日～12月24日 / 会場 ● フジギャラリー G2

2025年12月9日から24日まで、フジギャラリーにて展覧会「交差する海、響きあう文化：東アジア地中海の芸術的対話」を開催した。九州大学人文科学研究院のGloria Yu Yang(楊昱)とAnton Schweizerが企画し、ゲティ財団「Connecting Art Histories Initiatives」の支援を受けた研究プロジェクト「Shared Coasts, Divided Historiographies: Mobilizing People, Ideas, and Artifacts in the East Asian Mediterranean」(2023-2025)の成果を紹介するものである。世界各地から集まった13名の研究者が、九州・沖縄・台湾・朝鮮半島を結ぶ「東アジア地中海」地域に着目し、文化および美術の交流を多角的に検討してきた。

展覧会は二部構成とし、第一部では、二年間に実施された講演会および国際シンポジウムの成果をポスター形式で紹介した。第二部では、「東アジア地中海」と深く関わる沖縄の現代アーティスト4名の作品を展示した。会場中央には、上原美智子による全長24メートルの織物作品《モンスーン》を配し、アジア各地の植物繊維から織り上げられた波打つ造形が展示空間の軸を成している。根間



①

智子は写真シリーズ《Vulnerability》において、人々が「時々眺める」風景と内省的なテキストを組み合わせ、個人と世界との対話を提示した。平良優季の大画面絵画《garden》は、「窓枠」を想起させる15枚のパネルによって構成され、沖縄の自然を光と影の交錯として描き出している。胡宮ゆきな映像・アニメー

ション作品は、沖縄のカジマヤー(風車祭)と東アジアの紙扎を融合させ、祖母を記念するパレードを主題とした。

関連企画として、アーティストと研究者によるトークイベントを開催し、作品の制作や歴史・文化的背景について議論を深めた。九州大学のCharlène Clonts(フランス文学)によるアートヨガ



②

「Interwoven Bodies: Ode to the Living」も開催し、アーティストや学生、大学関係者など多様な参加者が集った。会期中には一般市民に加え、県外や海外からも観者が訪れ、沖縄タイムズや琉球新報などのメディアでも報道された。本展は、個人の経験と地域の記憶、歴史が交差する場として、多層的な対話を生み出した。

本展の開催にあたり、ご尽力くださったアーティストの皆様、松原憲治(ケイ・ネットワーク)、

画廊沖縄、研究者Eriko Tomizawa-Kayをはじめとする関係者の方々、ならびにご協力いただいた学生の皆様に、心より御礼申し上げます。



③

① 展示風景1 / ② 展示風景2 / ③ アーティストとキュレーター

COLUMN③

フジギャラリー展示開催予告

「海洋プラスチックの由来と影響—総合知で捉える地球規模の課題—」

岡田栄造 未来社会デザイン統括本部 シンクタンクユニット 教授



8月3日から10月2日まで、フジギャラリーでは「海洋プラスチックの由来と影響—総合知で捉える地球規模の課題—」展を開催します。

私たちの身近な生活から生まれるプラスチックごみ。その実態や環境へ

の影響について、九州大学では多分野の研究者が連携し、科学的な調査や社会への提言づくりを進めています。

本展示では、マイクロプラスチックの実物標本や研究現場の映像、わかりやすいインフォグラフィックなど

を通して、陸から海、空にまたがる環境問題を多角的に紹介します。

監修は海洋プラスチック研究の第一人者・磯辺篤彦教授。科学的知見に基づきながら、学生や地域の皆さんにも楽しみな学んでいただける展示です。



フジイギャラリー展示開催報告

九大鉱物 —地球をのぞく宝石箱—

伊藤 泰弘 開示研究部門・教授 / 加藤 萌 分析研究部門・助教

期間 ● 2026年1月13日～2月27日 / 会場 ● フジイギャラリー G2

2026年1月13日から2月27日まで、九州大学伊都キャンパスのフジイギャラリーにおいて、総合研究博物館主催「九大鉱物—地球をのぞく宝石箱—」を開催しました。九州大学には、帝国大学時代から今日まで教育・研究のために収集されてきた膨大な鉱物標本が受け継がれており、現在は総合研究博物館に収蔵されています。本展では、その中から旧工学部採鉱学教室や旧理学部地質学教室に由来する選り抜きの標本を公開しました。

展示では、大学草創期に海外から購入された旧工学部列品室の標本や、19世紀末から20世紀初めに日本各地、朝鮮半島、台湾、中国大陸などで採集された高壮吉鉱物標本を中心に紹介しました。特に日本産で大型結晶を含む鉱物標本は、現在では多くの産地が閉山し、ほぼ採り尽くされてしまったため、歴史的にも学術的にも貴重な資料として来場者の注目を集めました。また、九州大学における鉱物学の歩みとして、新鉱物の発見や、高壮吉・岡本要八郎・吉村豊文といった初期研究者の業績にも焦点を当て、大学の鉱物学の発展を紹介しました。

展示方法にも新たな試みを加え、鉱物標本をフォトグラメトリー技術によって3Dデータ化し、ペッパーズゴーストの仕組みを用いた立体的な演出や、天井の高いギャラ

リー上部への大型映像投影を行いました。さらに、紫外線で光る蛍光鉱物のために専用の展示装置を新たに制作しました。これらの展示は撮影スポットとしても多くの来場者を楽しんでいただきました。

短い会期ながら関連イベントも充実し、鉱物フォトグラメトリー体験ワークショップや福岡市西区長垂での野外観察会(あいにくの雨天となりましたが、多くの方にご参加いただきました)、さらに九大出身で鉱物学がご専門の延寿里美先生(愛媛大学・講師)によるトークイベントなど、多彩な企画を実施しました。また、現在連載中の漫画でアニメ化もされた、高校生や大学生、大学院生を通して鉱物の魅力を伝える作品とのコラボレーションにも挑戦し、大学博物館として新たな表現や発信の可能性を探る意欲的な展示となりました。



① 展示風景 / ② 展示風景 / ③ 鉱物フォトグラメトリー体験ワークショップ

COLUMN④



展示開催予告

令和8年度博物館公開展示

加藤 萌 分析研究部門・助教

令和8年度公開展示は、2026年7月25日(土)から8月25日(火)にかけての夏休み期間に、箱崎を飛び出し福岡タワーにおける

開催を予定しています。今年は昆虫を中心とした展示と、鉱物・化石を中心とした展示の二本立てとし、当館自慢の選りす

ぐりの標本たちを広い会場でたくさんの方々に楽しんでいただけるよう、鋭意企画を進めております。ぜひご期待ください。



博物館の活動記録

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

- 「九大 EXPO2024」
期間○令和7年8月2日(土)～令和8年3月31日(火)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
協力○九州大学広報課
- 「みんなの医学 ― 芸術・科学・ケアのビジョン―」
期間○令和7年9月8日(月)～9月26日(金)
場所○フジギャラリー
- 「九大博物館所蔵 九州大学歴史的什器コレクション紹介 パネル展示」
期間○令和7年9月9日(火)～10月24日(金)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
協力○基盤研究(B)「戦時下日本の実用家具のデザインと技術の特質解明」(代表: 新井竜治)
- 「九州大学100年の中国学研究」
期間○令和7年10月6日(月)～12/1(月)
場所○フジギャラリー
- 「第4回 化石の日記念 プチ展示 in 九州大学」
期間○令和7年10月14日(火)～10月15日(水)
場所○九州大学総合研究博物館 伊都標本資料研究・教育ランチ
主催○九州大学 地球惑星生物学研究室
- 「INTERWOVEN COASTS ― 交差する海、響きあう文化 東アジア地中海の芸術的対話―」
期間○令和7年12月9日(火)～12月24日(水)
場所○フジギャラリー
主催○Yu YANG & Anton SCHWEIZER (九州大学人文科学研究院)
Getty Foundation Connecting Art Histories Initiative
- 「九大鉱物 ― 地球をのぞく宝石箱 ―」
期間○令和8年1月13日(火)～2月27日(金)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
- 「出張! 九大総合研究博物館 in フジギャラリー」
期間○令和8年1月13日(火)～
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館

サテライト展示

- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立糸島市図書館二文館
- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立伊都文化会館
- 福岡県の蝶
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立志摩歴史資料館

共催

- 「箱崎・笠松の宝物探しと探検(地球からの恩恵)」
日程○令和7年11月22日(土)
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館
共催○笠松校区ハコハコ子ども広場、九州大学総合研究博物館

出展

- 「あおぞらたまご市」
日時○令和7年9月6日(土)・7日(日) 10:30～16:30
場所○香椎宮境内・社務所
主催○あおぞらたまご市実行委員会
後援○福岡市

協力

- 「岩戸山古墳再発見 ― 新確認の資料等」
期間○令和7年11月5日(水)～12月21日(日)
場所○八女市岩戸山歴史文化交流館 いわいの郷
主催○八女市、八女市教育委員会
協力○九州大学考古学研究室、九州大学総合研究博物館、北九州市立自然史・歴史博物館、九州歴史資料館
- 「BLUE WAY ― 私たちが創造する青の道 ― 2025」
日程○令和7年11月30日(日)
場所○管崎宮参道
主催○箱崎道実行委員会

テレビ・ラジオ出演

- TBS テレビ「クレイジージャーニー」
令和7年7月14日、8月4日
丸山 宗利(准教授)
- BS テレ東「いまからサイエンス」
令和7年7月30日
丸山 宗利(准教授)
- RKB 毎日放送「世界一の九州が始まる!」
令和7年11月9日

その他の活動状況

Others

運営委員会

令和7年12月10日(WEB)
令和8年2月12日(書面)

九大博物館 Instagram はじめました!

九州大学総合研究博物館、フジギャラリーの展示・催事情報等を発信していきますので、ぜひフォローをお願いします。



KYUDAI_MUSEUM

アカウント名: kyudai_museum
https://instagram.com/kyudai_museum/

総合研究博物館では2022年、新たに用途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下のご寄付を受け付けています。

用途特定寄附金

『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』



▼詳しくは九州大学基金のHPをご参照下さい

【九州大学総務部同窓生・基金課基金係: 総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cId=1558&r_search=&mode=1&page=1

◎当館は、九大百年の歴史的エリアである箱崎サテライトにおいて令和10年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育ランチを令和5年に設置しました。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。